

(対象事業：地域連携強化事業・地域文化資源整備活用事業・ミュージアム支援地域人材育成事業・国際交流拠点形成事業)

事業名：伊勢湾台風 50 年＜見て、聞いて、話すー語り継ぐ地域の歴史＞

事業者名：名古屋市博物館

住所：愛知県名古屋市長区瑞穂通 1-27-1

TEL：052-853-2655

FAX：052-853-3636

HPアドレス：<http://www.museum.city.nagoya.jp/>

連携事業者名：愛西市教育委員会・稲沢市教育委員会・戸田川緑地管理センター・弥富市歴史民俗資料館・長坂英生(名古屋タイムズ著作権継承者)

会場：名古屋市博物館・愛西市八開郷土資料保存館・稲沢市祖父江町郷土資料館・戸田川緑地管理センター・弥富市歴史民俗資料館

事業期間：平成21年7月1日 ～ 平成21年11月30日



1. 館の使命と本事業の関係

50 年前の出来事であるが、伊勢湾台風は家族や家を失った魔の記憶である。そのため、被災直後に被害状況と原因がまとめられたが、その後、伊勢湾台風は総括の機会を得てこなかった。

歴史事象には一地域にとどまらない事柄(災害・祭り・伝統行事など)が存在する。伊勢湾台風 50 年という節目を迎えるにあたり、地域の博物館が連携して行政単位をこえたネットワークで、伊勢湾台風からの復興を取り上げることは地域の博物館の課題である。

2. 企画内容

① 事業目的

自然災害は、復興とともに災害の傷跡が消えていくため、実物資料として次世代に受け継ぐことが困難で、やがて歴史の一齣として客観的に捉えるように変化する。伊勢湾台風は被災から 50 年をむかえ、災害から歴史への中間点に位置していて、被災者も少なくなってきた。

このような視点から本事業では、自然災害の記憶を、文化遺産や自然遺産に匹敵する「記憶遺産」ととらえ、地域の博物館が連携して伊勢湾台風をふりかえり、次世代に継承・保存していく基盤整備を行う。

② 事業概要

- ・基礎資料集の作成 伊勢湾台風による被害・復興がわかる基礎資料集を作成し、連携館で共通テキストとして活用する。基礎資料集は説明会や小中学校や図書館に配付する。
- ・展示・講座の開催 伊勢湾台風をテーマにした展示や講座を開催することで、伊勢湾台風に対する認識を深める。連携館の事業を共通ポスター・チラシで広報する。
- ・埋もれた情報の掘り起こしと集積 伊勢湾台風に関する個人所有の情報(体験談、実物資料、災害写真・映像)を掘り起こし、展示や講座に利用するとともに、埋もれた情報の活用を検討する。

3. 事業実績

(1) 事業の主な内容及び日程

①基礎資料集の作成

各地の被害・復興の様子と連携館の事業を組み込んだ基礎資料集を作成し、これを共通テキストに活用することで連携館の作業を軽減した。この冊子には、連携館の所蔵する写真や平成20年に休刊した夕刊紙『名古屋タイムズ』の著作権継承者から提供を受けた取材写真(右)を掲載した。基礎資料集は小中学校や図書館に配付した。



②展示・講座の開催、埋もれた資料の活用

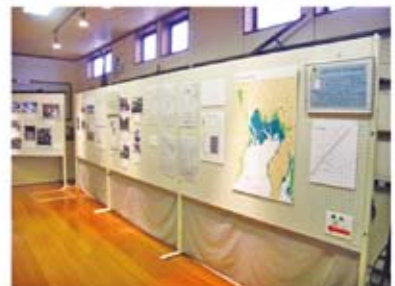
連携館の事業を共通ポスター・チラシで広報した。展示・講座を開催することで、家族や地域で伊勢湾台風を話し合う機会ができ、マスコミ報道とも相まって地域共通の話題になった。事業全体としては、地域との連携が深まり、災害や歴史に関心を持ってもらうことに成功した。会場写真は上から名古屋市博物館、戸田川緑地管理センター、弥富市歴史民族資料館、愛西市八開郷土資料保存館・稲沢市祖父江町郷土資料館の順である。



名古屋市博物館では、台風当時、小学3年生だった人たちに依頼して、小学校に残されていた復興直後の作文を展示し、あわせて50年後に記憶している体験談をビデオで上映した。子どもが伊勢湾台風をどうとらえていたか、子ども目線の情報提供ができた。講座では、16ミリ映画や新聞写真を利用して、被災から避難・復興への足取りをたどった。



戸田川緑地管理センターでは、名古屋市防災室とも連携し、隣接する南陽中学校が被災者の聞き取り調査や発表会を行う手助けをし、被害状況の把握に加え、防災への意識を高める事業を展開した。中学生が発表会で使用したパネルをそのまま戸田川緑地管理センターで展示し、地域住民に紹介した。



弥富市歴史民俗資料館では災害からの復興をテーマに展示を行った。展示終了後、学校や公民館の依頼により伊勢湾台風パネルセットを貸し出すことになり、本事業の成果が活用された。

愛西市八開郷土資料保存館・稲沢市祖父江町郷土資料館では、展示の開催により個人所蔵の関係資料や写真の

提供を受け、埋もれた情報の発掘につながった。また、訪れた人びとや家族の間で伊勢湾台風の経験と災害への心得を話し合う姿が見受けられた。

③事業日程

7月 2日	第1回実行委員会で事業内容を検討
7月25日～ 9月27日	弥富市歴史民俗資料館で「－あれから50年－伊勢湾台風展」を開催
8月10日	ポスター・チラシの印刷
8月31日	基礎資料集の印刷
8月26日～ 9月27日	名古屋市博物館常設展で「伊勢湾台風」を開催
8月30日～ 10月 4日	八開郷土資料保存館（愛西市）で「災害は忘れた頃にやってくる －ゼロメートル地帯の災害史－」を開催
9月19日～ 11月 8日	戸田川緑地管理センターで「伊勢湾台風」を開催
10月16日～ 10月25日	稲沢市祖父江町郷土資料館で「伊勢湾台風 －災害の記録が伝える こと－」を開催
10月14日	第2回実行委員会で各事業結果を報告

（2）参加者の数

参加者人数	延べ	26,552人
内 訳：名古屋市博物館		11,348人
愛西市教育委員会		1,065人
戸田川緑地管理センター		12,071人
弥富市歴史民俗資料館		1,866人
稲沢市教育委員会		202人

（3）事業により作成した印刷物等

ポスターB2	片面カラー印刷
チラシ A4	両面カラー印刷
基礎資料集 A4	カラー印刷 32頁（表紙含む）

（4）実施事業に関する新聞記事等

○新聞記事

名古屋市博物館

9月11日	朝日新聞	夕刊
9月19日	読売新聞	朝刊 事業案内
9月20日	中日新聞	朝刊 こどもタイムズ
9月22日	中日新聞	朝刊 市民版
9月26日	毎日新聞	朝刊

愛西市教育委員会

9月 2日	朝日新聞	朝刊 尾張・知多版
9月 7日	中日新聞	朝刊 県内版
9月 9日	読売新聞	名古屋圏版

稲沢市教育委員会

10月20日 中日新聞 朝刊 尾張版

10月19日 建通新聞社

弥富市歴史民俗資料館

9月12日 中日新聞 朝刊

9月20日 中日新聞 朝刊 こどもタイムズ

○テレビ、関連誌等

瑞穂フォーラム(地域広報紙) 名古屋市博物館 10月24日

スターキャットケーブルテレビ 名古屋市博物館

天ちゃんアワー どえりゃ〜7時 名古屋市博物館

CBCラジオ 愛西市教育委員会 8月31日

稲沢ケーブルテレビ 稲沢市教育委員会 10月22日

4. 事業の成果及び今後の課題（参加者の意見を含む。）

【成果】

事業全体としては、地域との連携が深まり、災害や歴史に関心を持ってもらうことに成功した。戸田川緑地センターと中学校の連携や、弥富市歴史民俗資料館のパネルセット貸し出しは、本事業が効果的に展開したことを示しており、博物館と地域の連携活動のための基盤整備が進んだと思われる。今後、本事業の経験を活かして地域との連携が深まり、博物館・地域それぞれの調査研究発表の場として、相互の利用が活発化することを期待している。

また、これまで連携館の関係は展示資料の貸借や情報交換が中心であったが、同じ目標に向かって活動することで一歩進んだ交流となった。今後も共同企画の立ち上げにより、地域の課題解明にいっそう連携を深めていきたい。平成22年度に木曽川流域の団体が木曽川の歴史・文化・自然を取り上げる共同事業が計画され、本事業の連携館もメンバーに加わっているので、今回の経験を活かしていきたい。

【今後の課題】

連携館の年間計画が優先され、事業期間にズレが生じたため、取り組みに温度差が生じた。また連携館以外にも、伊勢湾台風をテーマとした博物館があったので、早い時期に情報交換し、連携を拡大する必要があった。

本事業では、基礎資料集に使用した写真や新たに提供された情報を管理し一般利用に供するシステム作りを事業目標の一つとしていたが、システム作りが今後の課題に残った。あわせて伊勢湾台風50年を機に、埋もれた情報がマスコミに持ち込まれ報道されている。これらの情報収集やネットワーク作りも大きな課題である。

伊勢湾台風50年は、地域やマスコミ共通の話題となった。この盛り上がりは、60年・70年の節目を迎えるまでないであろう。この盛り上がりを一過性に終わらせず、伊勢湾台風の記憶を次世代に継承するためには、継続的な取り組みが必要となる。その見通しは立っていないが、愛西市教育委員会の展示のように、大きなテーマの中で伊勢湾台風を取り上げ、本事業の蓄積を活用する機会を作ることが必要であり、名古屋市博物館でも平成22年1月からの特別展「名古屋400年のあゆみ」の1テーマとして取り上げている。